



龜中たより

No.32

令和7年1月8日 文責 岡田

For The Students !

新年あけましておめでとうござい ます。

令和7年が幕を開けました。みなさま、あけましておめでとうございます。みなさんにとての2025年の幕開けはいかがなものだったでしょうか。2学期の終業式では、「農夫とそのこどもたち」というイソップ寓話を紹介し、家族愛や勤労の大切さについて考えてもらいました。おぼえていますか。新しい年の幕開けとともに今年の目標を掲げた人も多いことでしょう。それぞれの思いとともに始まった今年ではあります、この一年が幸せなものとなるよう、一日一日を大切に過ごしていきましょう。今年もよろしくお願ひします。

ヘルプマークを
知っていますか？



右のポスターは障害者週間のポスターコンクールで中学生区分での最優秀賞を受賞された田中海凪さんの作品です。あなたはこのポスターのメッセージを読み取ることができますか。

このポスターは田中さんが家族旅行した時に乗った列車での出来事をポスターにしたもので、その車両には左奥の壁に「ヘルプマーク」のポスターがあったそうです。しかし、ヘルプマークを付けた田中さんの弟に気付いてくれる人はなく、席を譲ってくれることもなかったそうです。このことから、ヘルプマークへの理解が進んでほしいとの願いを込めて、このポスターを作成したそうです。

始業式で「ヘルプマーク」を再度紹介しました。「ヘルプマーク」は病気や障がいによって援助や配慮を必要としている人が、周りに配慮が必要なことを知らせてることで援助を得やすくなるよう作成されたものです。このマークを見かけたら、「お手伝いしましょか」というひと声をかけられる人に、そのマークに気付ける人になりたいものですよね。スマホばっかり見ていては、人として必要なことも見落としてしまいそうです。



「障害者週間のポスター」中学生区分最優秀賞：田中海凪さんの作品

令和6年度「心の輪を広げる体験作文」より

以前に人権週間についてはこの学校だよりで紹介しましたが、それとほぼ時を同じくした12月3日～9日は障害者週間と定められています。内閣府が障害者週間の取り組みの一つとして募集している「心の輪を広げる体験作文」で、今年は横浜市の盛田福さんが中学生区分最優秀賞を受賞されました。(次頁)

障がいを抱えた兄を持つ作者が旅先で出会った人との交流から感じたことを書いた作品です。ぜひご覧ください。身の回りを見渡せば、周囲の人々や社会の考え方、やさしさで、“生きづらさ”が少なくなる人はたくさんいます。ヘルプマークへの理解とともに、「察する」力を持ち、行動できる人へとなっていってほしいものです。

「楽しむことを諦めない」

横浜市立新田中学校 二年 盛田 福

僕の兄には、生まれつきの病気がある。神経伝達が上手くいかない病気らしい。世界的にも症例が少ない兄の病気は、病名もなければ治療法もない。そんな未知の病と闘っている。

現在高校三年生の兄が小さかった頃は、皆と同じように歩いたり、走ったり、遊んだりできた。徐々に歩けなくなったのは、小学五年生頃。中学生になってから車椅子を使うようになった。兄が車椅子を使うようになってから、僕達家族は、時々二人家族になる。スタジアムでサッカーを観る時。遊園地に行った時。階段しかないお店に入る時。兄と母。僕と父。二人ずつ別々に過ごす。それは、仕方がない事だと思っていた。しかし、この夏その考えを変える出会いがあった。

家族で沖縄旅行に行った時のことだ。今まで見た事もない綺麗な海を目の前にして、「ここで待っているから楽しんで来て。」

ビーチの入り口でいつものように兄が言った。砂浜を車椅子で進む事が出来ないのだ。父と母と僕で車椅子を持ち上げてみたり、砂浜用の車椅子がないか問い合わせたり、と悪戦苦闘していた。やはり、また二人家族か…。と諦めかけた時、ビーチスタッフのRさんが声をかけてくれた。

「せっかく沖縄まで来てくれたんだから、一緒に楽しもう。何の問題もないよ!!」

笑顔でそう言うと、父でも背負うことができない大きな体の兄を背負い、後ろから父が支え、海の中まで連れていってくれた。申し訳なさそうに、

「ありがとうございます。」

と何度も頭を下げる兄に、

「大丈夫だよ!! いつでも指名待ってるからね。」

と明るく答えてくれた。そして、兄でも出来るマリンアクティビティを楽しませてくれた。Rさんのおかげで、家族一緒に沖縄の海を楽しむことが出来たのだ。兄はとても、嬉しそうだった。七年ぶりに兄と一緒に入った海。久しぶりに兄と一緒に楽しむことができた。もっともっと沢山の体験を兄にさせてあげたいと思った。そして、兄以上に嬉しそうな父と母の顔が忘れられない。

僕はRさんの振る舞いや言動から人の温かさを感じた。その優しさや気づかいに感動した。心のバリアフリーとはこういう事だと実感した。障害があってもなくても、相手に楽しんで欲しい。笑顔になって欲しいと思う気持ち。そのために、出来ない理由を探すのではなく、出来る方法と一緒に考えること。たとえそれが上手くいかなくても、一緒に楽しもうと前向きに考えてくれることだけで、障害がある人や、その家族が救われることをRさんが気付かせてくれた。

はじめから無理と決めつけていたら気付けない事が沢山ある。だから兄にも、楽しむ事を諦めないでほしい。そして僕がすべきことは、兄と一緒に出来る方法を考え、行動してみること。まずは、僕が心のバリアフリーを実行してみようと思う。

障害がある人も無い人も関係なく、皆一緒に楽しめることが、どれだけ尊い事か気付けたから。